

一般質問

議員の知見と活動の集約

一般質問は、町政全般にわたって、議員個人が執行機関に質問し見解を求めるものです。議員の知見と活動の集約であり、議会活動の「花形」とも言われています。

吉岡町議会では、質問・答弁をあわせて、1人60分以内の持ち時間があります。



▲本会議の様子を生中継録画でも配信



■富岡 大志 議員……………6ページ

1. 神奈川県開成町との積極的交流を
2. バイパス間接続 渋川市と協議は

■廣嶋 隆 議員……………12ページ

1. 町の最終処分場の基本方針は
2. 進入路の道路整備は

■秋山 光浩 議員……………7ページ

1. 群馬大学ベンチャーと包括協定を
2. 農産物の吉岡ブランドを

■春山 和久 議員……………13ページ

1. 天神東公園 どう進めるか

■小林 静弥 議員……………8ページ

1. 「ひばりの家」での健康診断は
2. 「よしおか支え愛マップづくり」の今後は

■富岡 栄一 議員……………13ページ

1. 産業団地事業の今後は

■藤多 ゆかり 議員……………9ページ

1. 給食で地産地消の推進を

■飯塚 憲治 議員……………14ページ

1. 駒寄川河川改修の内容と工期は
2. 吉岡バイパス延伸の計画は
3. 業務執行スピードの向上策は

■宮内 正晴 議員……………9ページ

1. 県道バイパス周辺に公園整備を

■坂田 一広 議員……………15ページ

1. 町の高齢者福祉の課題は
2. 公共施設のバリアフリー化は

■飯島 衛 議員……………10ページ

1. 高齢者世帯への防犯対策支援を
2. ついたて式看板の効率的な利用を

■小池 春雄 議員……………16ページ

1. 学校給食で地産地消を
2. 食の安全と農業者育成を

■大井 俊一 議員……………11ページ

1. オピニオンリーダーを増やす施策は
2. ふるさと祭りアンケートは

神奈川県開成町との積極的交流を



とみおか たいし
富岡 大志 議員



録画映像は
こちらをCHECK

答 さまざまな面で交流を深めたい

問 令和6年5月に議会広報常任委員会が神奈川県開成町へ視察に行ったことがきっかけとなり、同年9月に開成町長が吉岡町を訪問された。開成町長のSNSには、吉岡町と交流を深めさせていただきたいという投稿があったが、訪問の際にどのような話があったのか。開成町と吉岡町は、両町とも自立持続可能性自治体であったり、パークゴルフ場があったりと、共通点が多くあり、行政におけるノウハウや課題の共有が期待できる。ぜひ積極的に交流を進めてほしいと考えるが。

答

交流のきっかけをつくっていただいた議会広報常任委員会の皆さまに感謝している。令和6年9月に開成町の山神町長が来町され、本町と※災害時相互応援協定を締結したいとの申し出があった。本町としても遠隔地自治体との災害時の協定締結は必要であると考えていたことから快諾。具体的に話を進める方向で意見が一致した。令和6年12月中に協定を締結する方向で現在準備を進めている。本町と開成町は、指摘のとおり共通点を多く持っている。今回の協定締結を皮切りに、さまざまな面で交流を深めていきたいと考えている。

ミニ解説

※災害時相互応援協定
地方自治体や関連機関が災害時に人的・物的支援を相互に提供することを目的として締結する協定。議会閉会後の令和6年12月16日に神奈川県開成町と締結。本町にとって県外自治体と初の締結となった。

バイパス間接続 渋川市と協議は 調整の場設置へ向け 協議している

問

令和6年度内に策定・公表を予定している次期県土整備プランに、県道前橋伊香保線吉岡バイパスについて、宮東交差点より北の「仮称杉下交差点」までの1・3キロメートル区間が計画期間内に着手する事業として位置付けられました。遅くとも2029年度までには着手されることになり、国道17号前橋渋川バイパスとの接続となれば、利便性向上や地域の活性化



12月16日に災害時相互応援協定を締結

答

指摘のとおり、バイパス間を結ぶことは、町づくりや物流・自動車交通の観点からも非常に重要で、その実現には渋川市との連携が必要不可欠。現在、群馬県・渋川市・吉岡町の3者で検討・調整の場を設置する方向で、関係者と協議をしている。



バイパス間の接続が地域を活性化



あきやま みつひろ
秋山 光浩 議員



録画映像は
こちらをCHECK

群馬大学ベンチャーと 包括協定を

答 希望が持てる申し出と考える

問 私が群馬大学の大学院生に農産物作りを教え

たことがきっかけになり、群馬大学発ベンチャー企業から、吉岡町と産学官連携の包括協定を締結したいという申し出を受けた。このことを町側はどう考えているか。

答 産学官連携の取り組みにより、これまでにな

い新しい農業への可能性や、農業の持続可能な発展など、希望が持てる申し出であると考えている。

問 群馬大学が研究を重ねてきた土壌改良剤（肥料）を使った農産物選定と栽培を行い、地域ブランドを確立したいという考えも

あるが、このことについてはどう考えるか。

答 農業の衰退が否めない状況下にある中、吉岡町に注目していただき、さまざまな提案をしていただけることは、非常にありがたいことだと考えている。

問 廃棄されてしまう食料や食品・廃菌床・米ぬ

かなどにバクテリアを加え、群馬大学が考案した発酵機を使用してこの肥料を作る訳だが、この発酵機を吉岡町内に設置できないかという話をもらっている。この件に関してはどんな見解を持っているか。



群馬大学が考案した発酵機

答 正式な申し出があった場合は、関係各課と調整し検討したい。

農産物の吉岡ブランドを

消費者イメージ向上にもつながる

問 町と群馬大学が協力してこの土壌改良剤を作り、農産物の吉岡ブランド

を確立し、ふるさと納税返礼品を充実させ、さらに循環型の農業と食の連鎖につなげることにしている。どのように考えるか。

答 循環型農業は、自然環境への負荷を軽減する

農業であり、廃棄物を資源として再利用することで持続可能性が高まり、安定した生産ができると考えている。食の安全安心やSDGsへの貢献にもなり、消費者へのイメージ向上にもつながると考えている。

問 数年後、給食センターが新しくなる。今回提案した土壌改良剤を使用し

て生産した安全安心の米・野菜が、町内産としてそろそろようになつたら、最近はまだあまり聞かなくなっている「地産地消」という単語や、食育の観点からも子どもたちにも提供したいと考えるが。

答 地産地消を学校給食に取り入れることは、食

の安全を始めとした健全な成長につながる非常に意義のある取り組みである。提供機会の検討は、食育の観点からも大変意義深い。



発酵機の操作盤は極めてシンプル

「ひばりの家」での健康診断は



こばやし しずや
小林 静弥 議員



録画映像は
こちらをCHECK

答 校医の医院で無料受診できる



子どもが楽しくいられることが何より大切
「ひばりの家」と指導員の先生

問 不登校の児童・生徒が
年々増加傾向にあると
いうことで、令和6年7月
に開設した「ひばりの家」
について、児童・生徒の健
康面を考えたとき、健康チ
ェックとしての定期健診も
必要になるかと思うが。

答 「ひばりの家」に通所
している児童・生徒に
限らず、登校しない日が多
い児童・生徒については、
校医のクリニックまで出向
けば無料で健康診断を受け
ることができる。受診案内
について学校から保護者に
確実に伝え、毎年受診でき
るようにしたい。

問 駒寄スマートIC利用
客を、吉岡町の観光に
つなげるような取り組み
を。

答 駒寄パーキングエリア
や近隣観光案内所など
へパンフレット配置のほ
か、町内の観光資源を効果
的に結びつけられるよう
な、情報発信施策の検討を
図りたい。

問 吉岡町総合防災訓練
は、幅広い年齢層の参
加が大切と考えるが。

答 訓練参加は自治会役員
中心であり、年齢層が
高めだった。今後は、吉中
ボランティアの活用、自治

会にも幅広い年代の参加を
呼びかけることを考えてい
る。

**「よしおか支え愛マッ
プづくり」の今後は
各自治会へ広め継続
していきたい**

問 小倉自治会の「よしお
か支え愛マップづく
り」が今回2回目。各自治
会の現状と今後は。

答 小倉自治会をモデル地
区として、本年度は9
月下旬に北下自治会と南下
自治会が、初めての「よし
おか支え愛マップづくり」
を1つの会場で合同実施。
本年度中にと2つの自治
会で実施し、来年度以降は、
1年に4自治会ずつの実施
を目指し広めていきたい。
定期的な更新作業も重要な
ので、継続して取り組みた
い。

問 教育現場での防災訓練
は。

答 町内の各学校とも避難
訓練として年間3回、

火災・地震・不審者想定で
実施。避難訓練では、消防
署員から評価や、防災の重
要性について講話もいただ
いた。

問 防災や防犯の面で、今
後スマートフォンを利
用した高齢者支援を。町と
地域自治会とタイアップし
てスマホ教室を開くという
方法もあるかと考えるが。

答 スマートフォンを悪用
した、さまざまな高齢
者被害の報告もあるので、
対策面も考慮し、事業の
内容を検討できればと考え
る。



マップ作りを通して地域のつながりを再確認
小倉自治会「よしおか支え愛マップづくり」



ふじた 藤多 ゆかり 議員



録画映像は
こちらをCHECK

給食で地産地消の推進を

答 さらなる地産地消を推進

問 給食における地産地消の推進では、地元で生産された食材を使用することが重要だと考えるが。

答 給食の食材に吉岡町産を多く取り入れるよう努める。今後関係各課・機関とも協議し、さらなる地産地消を推進していく。

問 高齢者など交通弱者の足の確保は。

答 まちづくりと移動手段が一体となった都市計画マスタープランとして策定予定。

問 リバートピア吉岡の2時間券を復活し、500円での利用



地元の食材の使用が重要

を提案するが。

答 屋台骨となる指定管理者の経営状況の推移、先般の料金改定による経過、それらを考え検討。

問 吉岡中体育館のエアコン設置を。

答 補助金利用の調査研究を行い、設備方式や断熱性の検証を行っていききたい。

問 こども家庭センターの設置を。

答 すでに子育て世代包括支援センターが設置されているが、まだ取り組みは道半ばのため、検討したい。

県道バイパス周辺に公園整備を



みやうち まさはる 宮内 正晴 議員



録画映像は
こちらをCHECK

答 配置計画を検討する

問 公園整備を。

答 身近な公園については、町民から強い要望もあり、公園空白地を把握し、配置計画の検討を行う。

問 資源ごみの回収については、町民意識を高めるためや、育成会運営費の補助のために、補助金の増額を行うべきでは。

答 資源ごみ回収には自治会や育成会にご協力をいただいている。育成会の貴重な運営費のことも承知している。現状は育成会な



バイパス周辺に公園整備を

どの団体に頼るのではなく、町による回収量を増やしていきたい。

問 ヤングケアラのアンケート調査は公開可能か。

答 調査は全体的な傾向をつかむために行い、非公開となっている。学校ではヤングケアラの傾向がありそうな児童・生徒の一人一人の状況に応じた指導をしている。

問 改正道法についての教育指導は。

答 自転車の交通ルールのリーフレットを生徒に配布し、啓発を行っている。

高齢者世帯への防犯対策支援を



いいじま まもる 飯島 衛 議員



録画映像は
こちらをCHECK

答 「防犯ハンドブック」などを活用

問 高齢者世帯に対する防犯対策の強化支援のために、相談体制の構築や防犯グッズなどの設置費用に対して補助することはできないか。

答 防犯グッズの設置費用補助は、厳しい財政状況から予定はしていないが、「防犯ハンドブック」などを活用する取り組みを考えたい。

問 闇バイトという悪質で凶悪な強盗事件が多発している。犯罪抑止や摘発につながる手段として、防犯カメラの増設が必要と思うが。

答 既設防犯カメラの更新も優先して進めなが

ら、必要に応じて新規設置も検討。

問 吉岡バイパスの延伸について、渋川市などの協議は怎么样了っているのか。

答 現在、群馬県・渋川市・吉岡町の3者で検討。

調整の場を設置する方向で、関係者と協議をしている。

問 県道南新井前橋線の陣場交差点の信号機に右折信号の設置を令和5年も要望しているが、見込みは。

答 今後、地元からの要望があれば県公安委員会に上申したい。

ついたて式看板の効率的な利用を

問 臨時的設置は検討の余地がある

問 ついたて式の注意喚起の看板を、効率的に設置してはどうか。

答 短期的・臨時的かつ緊急的に必要な箇所への看板の設置は、検討の余地



ついたて式の看板の利活用を

があると考えている。

問 助産師による「いのちの大切さを伝える出前講座」の実施に向けた検討は。

答 コロナの流行により中断していたが、駒寄小では、令和4年から再開している。明治小では、コロナ以降実施していないが、再開してほしい講座と捉えている。

問 文化センターのトイレ洋式化の計画は。

答 本年度、図書館側の女子トイレの洋式化を行った。残り15基であるが、順次洋式化を進めたい。

問 町内に住んでいない人の空き家の管理はどう

なっているのか。

答 410戸の空き家があり、所有者が管理することになっている。

問 空き家の管理などを、ふるさと納税の返礼品にしてはどうか。

答 ふるさと納税を活用した対策は、ほとんど活用されていない。

問 粗大ごみを収集場所まで運ぶのが大変な人がいる。予約制の戸別収集もできないか。

答 前橋市・高崎市・太田市が実施しており、他市町村の事例などを調査して、実施について検討したい。



空き家の管理が課題となっている